

## 人的資本

### 【特集】労働組合

太平洋セメント労働組合は、2002年3月に日本セメント労働組合、全セ小野田セメント労働組合、秩父小野田労働組合が組織統合し発足した労働組合で、太平洋セメントの従業員のみで構成されています。発足以降、働く者の幸せと社会的地位の向上を目指すとともに、組合員の雇用と処遇を守り、家族を含めた生活を支えていくことを使命とし、太平洋セメントと緊密なコミュニケーションを図りながら、各種取り組みを行っています。

#### 取り組み

「相互信頼・相互理解」を基軸とした労使間における協議・意見交換の場として「労使協議会」「労使説明会」を随時開催しています。春季交渉をはじめ、組合員に関係する制度・規程の改定など幅広いテーマを取り上げ、会社と労組が互いに意思を疎通させながら建設的な議論を展開することを目的としています。また、5つの「中央労使専門委員会」を設置し、処遇制度、就業形態、労働時間、ダイバーシティ、健康経営などについて積極的な意見交換を行っています。また、2025年1月には、太平洋セメントの田浦社長と会社を取り巻く状況や「ありがたい姿・目指す方向性」の実現に向けた26中期経営計画の取り組み等についての対談を行い、その様子は労組機関紙に掲載されました。



労組機関紙「あすか」  
2025年新春特集号表紙

#### 中央労使専門委員会

名称	目的
人事・処遇制度専門委員会	人事・処遇制度全般についての見直し検討を目的とする。
雇用・就業形態専門委員会	雇用・就業形態が多様化する中で人事・要員管理を効率的に進めるため、労使による考え方の整理を目的とする。
労働時間専門委員会	労働時間、労働時間管理等について全事業所横断的な問題点、テーマ、労働時間法制への対応等についての意見交換を目的とする。
D&I推進専門委員会	多様な人材を受け入れて、その能力を発揮させていくうえで必要となる諸施策について積極的に労使で議論を行うことを目的とする。
健康推進専門委員会	「人的資本」である従業員の健康保持・増進による企業価値向上のため、積極的に労使と取り組みについて議論すること、また、密接に連携することを目的とする。



山陽小野田市の「CO<sub>2</sub>回収型セメント製造プロセス(C2SPキルン)実証試験設備を見学する労組本部の役員とグループ会社の労組役員



会社役員への労組方針説明会

#### 浅見委員長から一言

最優先事項は「安全に、そして健康に働ける職場の確保」。  
「元気に笑顔で出社し、元気に笑顔で帰宅する」  
そんな職場環境の醸成を目指すとともに、  
風通しの良い組織運営を継続。

私たちを取り巻く経済・社会環境は目まぐるしく変化しており、多様化・複雑化している課題等も多々ありますが、組合員の皆さんと遠慮なく徹底的に議論を行うとともに、一人一人と気持ちを繋ぎ、風通しの良い組織運営を継続して参りました。特に、近年人数が増えてきた若年層の方々とは、積極的にコミュニケーションを図り、次世代を担う人材育成にも注力しています。



2025年度労組本部役員

また、労働組合の使命である「助け合い・支え合い」の精神と、ビジョンに掲げる基本理念の下、先輩方が築き上げた「相互信頼・相互理解」の労使関係を基軸とし、組合員の皆さんが仕事と生活の調和を図りながら安心して有意義な毎日を送れることの実現に向け、精力的に活動しています。組合員の皆さんが生き生きと働けることは、モチベーションアップ、コンピテンシー（高業績者の行動特性）向上を通じて会社の業績向上にも資すると確信しています。今春には、大卒初任給30万円（エリア非限定職）をはじめとする賃金の引上げにも応じていただきました。こうした会社のご理解と取り組みに感謝しています。そして、様々な取り組みを行ううえでの最優先事項は「安全に、そして健康に働ける職場の確保」で

太平洋セメント労働組合  
浅見徹中央執行委員長  
委員長略歴  
1993年 当社入社  
熊谷工場製造係配属  
2015年 太平洋セメント労働組合専従  
2023年 太平洋セメント労働組合  
中央執行委員長に就任



す。そのためには、安全保安衛生の確保、労働災害の撲滅に向けて引き続き労使一体となって取り組んでいき、私たち働く者一人一人が意識を高め「元気に笑顔で出社し、元気に笑顔で帰宅する」職場風土の醸成に繋がっていきたく考えますので、会社側におかれましても今一段の取り組みをお願いしたいと考えています。

最後に、太平洋セメントの田浦社長も言及されている7Rプラス1T（7つのリスクと1つの脅威：国内セメント需要減、燃料価格不安定化、気候変動関連規制等環境コストの増加、建設資材原料供給力の低下、設備の老朽化、建設・運輸現場での人手不足問題、地政学リスクの高まりという7つのリスクと、災害激甚化の脅威）はセメント産業にとって禍をもたらすリスク・脅威ですが、同時にそこにビジネスの機会もあります。上部団体を通じた関係省庁・政党への産業政策要望も含め、様々な活動を積極的に展開し、セメント産業全体を元気づけていきたいと考えています。



田浦社長と対談する浅見委員長